

あなたは覚えている？

国語で学ぶ 図書たち



小学校 編

1 年

「くじらぐも」

くじらぐもからチックタックまで

石川文子/著 フロネーシス桜蔭社 908.3/ク

最初から最後まで心温まるお話です。

みんなで体操をして、かけっこをして、空を泳いで、歌って。

なんて楽しそうなんだろう。歌もあるのでぜひ調べてみてほしいです。

1 年

「ずーっとずっとだいすきだよ」

ずーっとずっとだいすきだよ

ハンス・ウィルヘルム/著 久山太市/訳 評論社 E/ウ

とある犬と男の子のお話です。

絵を見ていると犬の手触りや体温が伝わってきそう。

相手にきちんと伝えることはとても大切だと教えてくれる絵本です。

2 年

「ふきのとう」

ふきのとう

甲斐信枝/著 福音館書店 47/カ

竹やぶの中で、外を見るために懸命に頑張るふきのとうと、

春風をまつなかたちの物語です。冬から春になる瞬間の描写は

思わずため息が出るほどの美しさです。



2 年

「はながさいた」

まど・みちお全詩集

まど・みちお/著 理論社 J911.56/マ

春が来て、花がひらく喜びをやさしい言葉で歌った詩です。
自然の美しさやたくましさに、あらためて気づかせてくれる言葉の数々。
詩のあたたかさをぜひ味わってみてください。

2 年

「お手紙」

ふたりはともだち

アーノルド・ローベル/著 三木卓/訳 文化出版局 E/口

私たちとちょっと違う、カエルたちの友情のお話です。
お互いを思う様子が見ていてとてもほほえましい！
セピア調の色合いも見ていて落ち着きます。



2 年

「スーホの白い馬」

スーホの白い馬

大塚勇三/著 赤羽末吉/絵 福音館書店 OE/才

モンゴルの大草原で暮らす羊飼いの少年スーホと、
愛する白い馬との絆を描いた感動的な物語。理不尽な権力によって彼らは悲しい別れを
迎えますが、馬は自分の体から「馬頭琴」という楽器を生み出します。
楽器の音色に込められた友情と愛を感じてみてください。

2年

「スイミー」

スイミー ちいさな かしこい さかなの はなし

レオ=レオニ/著 谷川俊太郎/訳 好学社 E/レ

人と違うことに胸を張ることの大切さについてのお話です。

ずっと一緒にいた仲間たちと離れたスイミーが、冒険を通して強くなる姿には元気がもらえます。

3年

「モチモチの木」

モチモチの木

斎藤隆介/著 滝平二郎/絵 岩崎書店 E/サ

主人公の小さな成長が描かれる物語以外にも、特徴的な切り絵が印象ぶかいです。特にモチモチの木の見開きは圧巻です。

木の実から作ったお餅はどんな味なんでしょうか？

3年

「ちいちゃんのかげおくり」

ちいちゃんのかげおくり

あまんきみこ/著 上野紀子/絵 あかね書房 E/ア

ただ、家族みんなで影送りをしたかったちいちゃん。

そのささやかでかけがいのない願いを奪っていった戦争の恐ろしさが描かれていて、読んだ後考えさせられます。

3 年

「わたしと小鳥とすずと」

金子みすゞ童謡集 **わたしと小鳥とすずと**

金子みすゞ/著 JULA 出版局 911.58/カ

空を飛べる小鳥、きれいな音が出せる鈴、そして人間である「わたし」のそれぞれが持つ魅力を愛らしく描いた詩です。「みんなちがって、みんないい」という有名な一節は、周囲との違いに悩みがちな中学生の心に優しく寄り添ってくれます。自分も他人も、それぞれがかけがえのない存在なのだと教えてくれる名作です。

3 年

「三年とうげ」

さんねん峠 朝鮮のむかしばなし

李錦玉/著 朴民宜/絵 岩崎書店 OE/リ

「ここで転ぶと三年しか生きられない」という言い伝えがある峠で、うっかり転んでしまったおじいさんのお話です。落ち込むおじいさんに対し、「何度も転べばその分長生きできる」という逆転の発想で救う展開がとても痛快です。ピンチをチャンスに変える知恵とユーモアの大切さを、テンポよく教えてくれます。

4 年

「ごんぎつね」

ごんぎつね

新美南吉/著 黒井健/絵 偕成社 E/二

多くが覚えているであろう作品の一つ。
すれ違ってしまった展開と淡い絵が印象に残っています。
最後の煙の描写が忘れられません。



4 年

「手ぶくろを買いに」
手ぶくろを買いに

新美南吉/著 黒井健/絵 偕成社 E/三



冷たい雪の日に、子狐がお母さん狐のために初めて街へ手袋を買いに行き、心温まるストーリーです。未知の世界へ踏み出すときどきと、人々の温かい心を感じられる美しい童話。ぜひ親子で読んでみてください。

5 年

「大造じいさんとガン」
大造じいさんとガン

椋鳩十/著 偕成社 93/ム

賢い鳥である「残雪」と猟師である大造じいさんの静かな戦いのお話です。知恵比べが描かれます。両者の誇り高さと結末はすっきりするものがあります。

5 年

「うぐいす」
雲の窓[小さい詩集]

武鹿悦子/著 牧野鈴子/絵 大日本図書 91

春の訪れを知らせるうぐいすの鳴き声や、季節が移り変わる瞬間の空気を切り取った詩です。思わず声に出したくなる心地の良いリズムの詩。ぜひ味わってみてください。

6 年

「やまなし」

宮沢賢治童話集

宮沢賢治/著 世界文化社 Y913/ミ

小さな谷川の底にある水の世界で暮らすカニの兄弟たち。
厳しい自然の中で生命の美しさや自然の姿を描いた儚く美しい童話です。

コラム

草原のチェロ・馬頭琴

「スーホの白い馬」で登場する馬頭琴は、今でもモンゴルではなじみ深い楽器です。馬頭琴はモンゴル語で「モリンホール(馬の楽器)」と呼ばれ、ユネスコ世界無形遺産に登録されています。また、モンゴルでは乗馬と併せて馬頭琴が上達して、はじめて一人前とみなされます。馬頭琴は、弦が二本張られている擦弦楽器で、ネックの一番上に必ずある馬の頭の彫刻が特徴です。実際に使われる素材は、物語のように馬の体ではなく、木製のモノが多いです。やわらかくあたたかい、深みのある馬頭琴の音色を聴いた人には幸運が訪れるといわれ、舞台音楽だけでなく、結婚式などのお祝いの席にも欠かせない楽器です。

参考文献

<https://kisakata-baigal.com/news/404/>



中学校 編

1 年

「少年の日の思い出」

少年の日の思い出 ヘッセ青春小説集

ヘルマン・ヘッセ/著 岡田朝雄/訳 草思社 B943.7/ハ

幼いゆえに犯してしまう過ちと、消えない思い出。
印象的なセリフを覚えている人も多いのではないのでしょうか。
改めて読み返すと主人公への感情が変わるかもしれないですよ？

1 年

「おとなになれなかった弟たちに…」

おとなになれなかった弟たちに…

米倉斉加年/著 偕成社 H726.6/ヨ

戦争で苦しい生活を強いられたある一家。
「ぼく」は赤ちゃんの弟をかわいがっています。しかしだんだんと
食糧不足がひどくなり、栄養が必要な弟も栄養失調になっていき…

1 年

「ダイコンは大きな根？」

キャベツにだって花が咲く 知られざる野菜の不思議

稲垣栄洋/著 光文社 626/イ

いつも食べているダイコンの知られざる秘密を解き明かすお話です。
「ダイコンのどこまでが根で、どこからが茎なのか」といった誰かに伝えたく
なる解説が盛りだくさんです。自然の不思議な力を本で味わってください。

1 年

「西の魔女が死んだ」

西の魔女が死んだ

梨木香歩/著 新潮社 Y913/ナ

梨木香歩さんの名作。学校へ行きづらくなった少女が森の中で暮らすおばあちゃんのもとで過ごした日常を細やかに描いた作品です。毎日を丁寧に生きることは少しずつ少女の心を回復させていきます。温かい言葉に触れたい方、ぜひ読んでみてください。

1 年

「注文の多い料理店」

銀河鉄道の夜

宮沢賢治/著 谷川徹三/編 岩波書店 913.6/ミ

山奥で狩猟をしていた二人の紳士は山中で「西洋料理店 山猫軒」に出会う。怪しみながら入店すると「当軒は注文の多い料理店ですからどうかそこはご承知ください」と書かれていて…？



1 年

「月夜の浜辺」

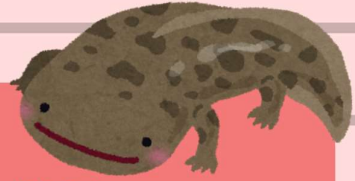
日本語を味わう名詩入門6

中原中也/著 あすなろ書房 91

静かな月夜の波打際で拾った一つのボタンが指先に沁み、心に沁みる。
中原中也による切ない愛着と哀愁漂う詩。
当時の彼のバックボーンを調べてみるとより深く味わえるでしょう。

2 年

「山椒魚」



21 世紀版少年少女日本文学館

太宰治・井伏鱒二/著 講談社 93/二

大きくなりすぎて岩屋の中に閉じ込められたサンショウウオのお話です。
鬱々と偏屈的な山椒魚ですが、そんな岩屋に蛙が入ってきます。
一つ一つのセリフの心情を考えるのが楽しかったと記憶しているお話です。

2 年

「アイスプラネット」

アイスプラネット

椎名誠/著 講談社 Y913/シ

僕のおじ、ぐうちゃんは周りの大人とはちょっと違う。
ぐうたらでほら話ばかりする。けれど、そんなぐうちゃんが僕は
大好きで… 当たり前を疑うことの大切さを知ることができる一冊。

2 年

「走れメロス」

走れメロス

太宰治/著 角川書店 B913.6/夕

「メロスは激怒した」この冒頭の一文だけ知っている方も多いのでは
ないでしょうか？しかし、それだけではありません。
この物語の葛藤や友情に、読後には涙腺が緩むはずです。

3 年

「故郷」

故郷/阿 Q 正伝

魯迅/著 藤井省三/訳 光文社 B923.7/ル

中国での再会のお話です。あんなに無邪気に遊んでいたのに、
お金と立場にとらわれてしまった悲しい大人たち。
どことなく息苦しさを感しました。

3 年

「世界はうつくしいと」

世界はうつくしいと 詩集

長田弘/著 みすず書房 911.56/オ

日々見ているものの尊さに気づける詩です。
些細な瞬間を柔らかに描いた言葉の数々が心に語りかけてきます。
世界を少しだけ愛おしく思えるような詩に出会ってみませんか。

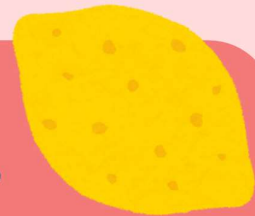
3 年

「レモン哀歌」

日本語を味わう名詩入門 8

高村光太郎/著 あすなろ書房 91

高村光太郎が床に伏せていた妻・智恵子のことを綴った詩集
『智恵子抄』に収録された一遍。白い床ですずしく光るレモンを通して
みる夫婦の愛に込みあがる思いがあります。



コラム

世界で習う図書たち

日本の国語の授業で扱う図書たちを見てきましたが、世界ではどのような作品が読まれているのでしょうか？

・アメリカ

『The Giver』(邦題：ギヴァー 記憶を注ぐ者) 著者：ロイス・ローリー
小学校高学年から中学校で読まれることが多く、1994年にニューベリー賞も受賞している名作。争いやもめごとなどが起こらず、すべての苦痛が取り除かれた、まさに理想郷に見えるものの、人々の感情が制御されたコミュニティで、12歳の少年がただ一人の人類の記憶を受け継ぐ「レシーヴァー」となり、真実を探す旅に出る物語。日本では2014年に映画化もされました。

・スペイン

『La casa de Bernarda Alba』(邦題：ベルナルダ・アルバの家)

著者：ガルシア・ロルカ

二十世紀スペイン最大の詩人・劇作家ガルシア・ロルカの作品です。五人の娘に一切の外出を禁じた母の激しい支配と、その中で娘たちの嫉妬から起こる悲劇が描かれています。また、「血の婚礼」「イエルマ」を加えて、ロルカの三大悲劇とも呼ばれています。

・フランス

『Le Petit Prince』(邦題：星の王子さま)

著者：アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ

著者であるサン＝テグジュペリは、フランス人作家であり、民間航空の歴史を切り開いた伝説的飛行士でもありました。この作品の背景にも、彼の壮大な人生と大きな時代のうねりが深く関わっています。「l'essentiel(レゾンシエル)=本当に大切なもの」に気づかせてくれるこの物語は、現在500以上の国と地域の言語・方言に翻訳されている大ベストセラーです。

参考文献

- ・「ギヴァー 記憶を注ぐ者」ロイス・ローリー(著)，島津やよい(訳) 2010.1.8 新評論社出版
- ・<https://lepetitprince-japon.com/>
- ・<https://www.iwanami.co.jp/book/b248393.html>

高校 編

「山月記」

山月記・李陵

中島敦/著 ぎょうせい Y918/マ/12

詩で名をあげることができずに虎になってしまった役人の話。
印象的なフレーズである「臆病な自尊心」と「尊大な羞恥心」。
あなたの中にも「虎」はいるのではないのでしょうか。

「舞姫」

舞姫・うたかたの記

森鷗外/著 角川書店 B913.6/モ

エリート街道まっしぐらだった豊太郎。
踊り子エリスの交流によって、考えが変わっていきます。
最後の結末は、どうすればよかったのでしょうか。史実と比べても面白いですよ。

「こころ」

こころ 坊っちゃん

夏目漱石/著 文春文庫 B913.6/ナ

「先生」と「私」の交流、若い頃の「先生」とその友人「K」の青春、
そして…と大きく三部で書かれています。教科書で全文読むことは難しい
のではないのでしょうか。人間らしい苦悩が好きです。

「畜犬談」

太宰治短編集

太宰治/著 世界文化社 93/夕

「私は、犬については自信がある。
いつの日か、かならず喰いつかれるであろうという自信である。」そんな強烈な一文から始まる「私」と一匹の犬のお話。

「羅生門」

芥川龍之介短編集

芥川龍之介/著 世界文化社 93/ア

羅生門の下で雨やみを待つ下人。盗人になるか飢え死にするか、善と悪の狭間で揺れ動きながら、生きていくために彼はどんな選択を取るのか。一人の男の運命の分かれ目を見てみませんか。

「なめとこ山の熊」

宮沢賢治童話集

宮沢賢治/著 世界文化社 913/ミ

命を奪うことに葛藤を抱く熊撃ちの名人である小十郎と、なめとこ山の熊たちとの切なくも温かい交流と宿命の物語。生きることや命について深く考えさせられます。

コラム

文豪たちのこんな話！

・芥川龍之介

生誕：1892 年 3 月 1 日 死没：1927 年 7 月 24 日(35 歳没)

出身地：東京都

芥川は女性を好きになるとすぐラブレターを送りたがったといえます。家のお手伝いさんの女性に送った手紙では、ひたすらに「かわゆいのだ」と連発。のちの奥さんになる塚本文には「もし文ちゃんがお菓子だったら頭から食べちゃいたい」といった内容の手紙を送っていました。また、芥川はたいへんな風呂嫌いとしても有名です。

・夏目漱石

生誕：1867 年 2 月 9 日 死没：1916 年 12 月 9 日(49 歳没)

出身地：東京都

「吾輩は猫である。名前はまだ無い。」から始まる『吾輩は猫である』でも知られる漱石は実際に生涯で数匹の猫を飼っていました。初代の猫は漱石が当時住んでいた、千駄木の家に迷い込んだ子猫でした。漱石の妻・鏡子は猫嫌いで何度も追い払ったが、「そんなに入ってくるんなら、おいてやったらいいじゃないか」の一言で猫は一家に加わることになりました。明治 41 年に初代の猫は死に、書斎裏の桜の樹の下に埋葬され、翌日に漱石は門下生数名に「猫の死亡通知」とハガキを送りました。ちなみに、この猫にも名前はなかったそうです。

・中原中也

生誕：1907 年 4 月 29 日 死没：1937 年 10 月 22 日(30 歳)

出身地：山口県

中原はお酒を飲むのが好きでしたが、とても酒癖が悪かったそうです。檀一雄の家で酒を飲んでいた中原は、ちょうど居合わせた太宰治に対して「青鯖が空に浮かんだような顔をしやがって」と言ったり、中原に何の花が好きだと聞かれた太宰がモモノハナと答えたところ「チェッ、だからおめえは」と言われ、いい加減な反応をされた太宰は終始泣きそうな顔をしていたといえます。

参考文献

- ・『文豪どうかしてる逸話集』進士素丸 2019.10.25 KADOKAWA
- ・『小説 太宰治』檀一雄 2000.2.16 岩波書店
- ・https://soseki-museum.jp/blog/blog_other/7024/

「OPAC」で本を探そう！

「OPAC」とは「Online Public Access Catalog」の略称です。
利用者がオンラインで図書館の蔵書を検索・閲覧できるシステムの
ことを指します。

図書館の本を探したい、本を使って調べ物がしたいときは、ぜひ
OPAC を活用してみてください！

品川図書館での検索はこちら
<https://www.shinagawa-lib.jp/opw/OPW/OPWSRCH2.CSP?DB=LIB&MODE=1>



このブックリストは清泉女子大学図書館学生スタッフ 「ライブラリーサポーターズ」が作成しました！

「ライブラリーサポーターズ」とは、多くの学生に図書館に親しんでもらうため、イベントの企画と実行、おすすめ本の紹介、他大学図書館学生スタッフとの交流会の開催、中学生の職場体験のサポートなど、魅力的な図書館を目指す活動をしています。

清泉女子大学附属図書館ホームページはこちら
<https://www.seisen-u.ac.jp/library/>

